表地に対する芯地の選択について(オ2報)

— 婦人コートの場合 —

文化女大家政 水上ひろ子

目的 オ1報の婦人スーツ地に対する芯地の選択に続いて、今回は表地がやや厚地の場合としてコート地に対する芯地の選択について調べた。被服構成の学生指導の中で100着のコート地に対して種々の材質と厚さの異なる芯地を選び、これが表地に対して適当かどうかを官能検査により調べた。一方表地および芯地、また表地と芯地の組合せの物性を測定し芯地選択に対する客観的条件を得ようとした。

方法 学生が3種類のなかから選んだ芯地を用いて、コートを同一方法で構成した後、3段階の評定法により、被服構成担当教師10名によって芯地の適否を官能検査で行った。各物性については、物性の大小を3段階にわけ、それに対する評定に差があるかどうかをウォーリスのH検定で行い検討した。また評定の高いグループと低いグループとの間の物性に差があるかどうかを調べた。

結果 ① 表地の厚さ順から3段階に分けて、厚い方のグループは全体に評定値の平均値が低く、厚さかろうすいグループより芯地の選択が適当でないとは判定される傾向である。

② 芯地は羊毛100%の密な芯地Cを用いたものは、14点以下の悪い評定値のものは一つも含まれていない。以上のことより芯地のちがひによる評定値の良し悪しは認められたので今まで勘にたよっていた芯地の選択について多少科学的な資料が得られた。